

環 礁 ー本部だよりー



マーシャル方面遺族会

<http://mibfa1926.com>

●第54号



携帯サイト

- 発行日：令和8年8月1日
- 発行人：高林芳夫
- 本部：189-0013 東京都東村山市栄町1-33-22
- 電話：090-7223-0500(保証)
- 編集人：鈴木千春



慰霊祭当日の朝、甲飛喇叭隊の軍装行進

ごあいさつ

高林芳夫

今年も暑い夏がやってまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

4月5日第63回慰霊祭を無事開催する事が出来ました。感謝いたします。

名誉会長朝香誠彦様（ともひこ）が欠席のため、代わりに長男の明彦様（あきひこ）（54歳）が参列下さいました。祭文は相談役、大給乗龍様に奉読頂きました。参列者は全国から55名でした。今回、明彦様はじめ若い世代の参列者が多く平均年齢が66歳と若返りました。全国的に遺族会が減少する中で当会は各方面から注目されています。

総会後、元空将・織田邦男様の講話を拝聴。テーマは「日本再生のヒントは自衛隊教育にあり」でした。「戦後の教育は「公」より「私」を優先する教育だった。数年前の国際世論調査で「貴国が侵略されたら戦うか」との設問に対し「はい」と答えた日本人は13・2パーセントであり79ヶ国中、断トツのビリである」。織田氏は2003年イラク人道復興支援で航空部隊指揮官として派遣され、復興支援は諸外国から高い評価を得ました。「国内での災害復興時も隊員は「公」を優先して汗しており、自衛隊教育が役立っている」という貴重なお話でした。慰霊祭は厳粛かつ盛大に斎行されました。

令和8年度 第63回 慰霊祭・総会報告

令和8年4月5日(日)靖國神社にて、
慰霊祭・総会が開催されました。



満開の桜



受付

■総会

- ― 開会の辞
- ― あいさつ
- ― 活動報告
- ― 会計報告
- ― 会計監査報告
- ― 今年度行事予定
- ― その他
- ― 閉会の辞



朝香名誉会長令夫人と長男の明彦さん



相談役・大給乗龍さん

- ・司会・清水副会長より挨拶、保延恒氏が議長に指名
- ・保延恒氏が開会を宣言
- ・高林会長に続き、朝香名誉会長令夫人、ご令息・明彦様、大給相談役、安細篤志会員、ゲストの中原様(六本木男声合唱団)、元外務省(元在マレーシア日本大使館一等書記官・領事)岩田様よりそれぞれご挨拶をいただいた
- ・高林会長より活動報告
- ・会計・保延副会長より会計報告
- ・監事・吉田氏より「会計は適正」と報告
- ・高林会長より今年度の行事予定
- ・閉会が宣言され、総会は終了した



岩田さん



安細さん



織田さん



中原さん



全国から多くの方が参集

■講話

元空将・織田邦男様の講話をいただきました
ました

■写真撮影

隣室で集合写真を撮影

■慰霊祭

12時より昇殿参拝

参集殿に移動、玉串奉奠者を先頭に拝殿へ向かい、お祓いを受け本殿にて、大給相談役が祭文を奏上された後、玉串奉奠者とともに全員が参拝し、慰霊祭は無事に終了しました。

慰霊祭出席者 55名 (敬称略・五十音順)

朝香貴子 朝香明彦 大給乗龍 大給三枝子 安細和彦 岩田哲弥 織田邦男 中原悦夫 池田幸夫 石澤洋子 井上眞由美 井上賀彦 岩本さつき 岩本ちひろ 大井和子 小田原利子 小田原真由美 小田原豊 小田原由樹 笠原奈美子 金森佳子 河崎仁衛 黒澤みどり 黒澤亮介 小林和子 近藤えり子 齋藤幸生 齋藤百香 齋藤玲子 坂本一夫 佐藤勉 清水雅尚 鈴木千春 高林正子 高林芳

夫 田中奈美江 田邊順子 富岡滋子
中野和美 中村起也 蜂屋安理 服部政久 波頭友子 波頭幸弘 原田真 藤田朋子 保延京典 保延恒 保延務 眞鍋信一 山田二美 吉田正明 吉村真澄 渡部俊哉 渡部幸典

直会(懇親会)

慰霊祭終了後、希望者はアルカディア市ヶ谷「翠」に移動し、親睦を深めました。



直会には21名が参加

直会 出席者 21名 (敬称略・五十音順)

池田幸夫 石澤洋子 岩田哲弥 岩本さつき 岩本ちひろ 織田邦男 河崎仁衛 黒澤みどり 黒澤亮介 小林和子 近藤えり子 清水雅尚 高林芳夫 高林正子 富岡滋子 中野和美 蜂屋安理 原田真 藤田朋子 保延務 吉田正明

お知らせ

織田邦男氏(元空将・麗澤大学特別教授)の論文「日本再生のヒントは自衛隊教育にあり」を当会HP、「ホーム」の下部インフォメーションに掲載致しました。

この論文は「アパ懸賞論文」で最優秀賞を受賞されました。
是非ご覧ください。



慰霊祭参加者から ご感想をいただきました

戦後80年という節目を機に

中野和美さん・東京都・67歳
(戦没者の姪)



中野恵之(しげゆき) 命
所属部隊 横須賀第四海軍軍需部
戦没地 クエゼリン島
戦没日 昭和19年2月6日

戦後80年という節目を機に、以前より心に掛かっていた叔父の足跡を辿るべく、厚生労働省へ履歴調査の問い合わせを行いました。

生前、父が「南洋群島」としか語っていなかった叔父の最期は、マーシャル諸島クエゼリン島であったことが初めて明らかになりました。

叔父は昭和18年12月に横須賀を出港し、現地到着後ほどなくして戦死を遂げ

ていました。その無念さを見ると、言葉もありません。その後、縁あって遺族会を知り、会長へご連絡を差し上げたところ、事務局が近所の三鷹市にあると知り、お手伝いを申し出ました。

4月5日の慰霊祭、そして靖国神社本殿での参拝。こみ上げる熱いものを感じながら、私は写真の中の叔父と初めて對話ができたように思います。

歴史を単なる知識として終わらせるのではなく、先人たちの尊い犠牲の上に今の日本の平和があるという感謝を胸に、私自身も学びを深めてまいります。そして、この記憶を次世代へ語り継いでいくことこそが、今を生きる私の使命であると強く感じております。

祖父の地に想いを寄せて

― 慰霊祭に参列して

田中奈美江さん・千葉県・60歳
(戦没者の孫)

4月5日に行われましたマーシャル方面戦没者慰霊祭に初めて参列致しました。私の母の父はクエゼリン島で戦死して



吉田範滙(のりひろ) 命
所属部隊 海軍
戦没地 クエゼリン島
戦没日 昭和19年2月6日 32歳

おり、届けられたのは砂のみであったと聞いています。祖父母は結婚の翌年に母が生まれ、すぐに祖父は戦地へ赴きました。そのため母には父の記憶がなく、残された写真も横顔の一枚のみ。父の記憶がないまま過ごしてきたことに、どこか満たされない思いを抱えながら、その人生に思いを馳せる機会も限られていました。現在、厚生労働省へ情報提供を依頼し、その中で貴会の存在を知り、参列致しました。

前日は大雨と強風に見舞われましたが、慰霊祭当日は晴れ渡り、本殿での厳かな祈りの時間は、言葉にできないほど胸に迫るものがあり、深い感慨に包まれました。多くの方々の想いが重なり、過去と今が静かにつながるような、かけがえのない体験となりました。また、桜が美しく咲き誇り、花びらが風に舞う光景

がとても印象的でした。平和な日常の尊
さと、今ここに生きていることのありが
たさを、改めて噛みしめております。こ
れからも命の重みと平和の大切さを忘れ
ず歩んでまいります。

伯父さん、会いに行きます

笠原奈美子さん・神奈川県

(戦没者の姪)



金子輝雄 (カネコテルオ) 命
所属部隊 第755海軍航空隊整備兵
戦没地 ルオット島
戦没日 昭和19年2月6日

戦没者である伯父は、父の次兄になり
ます。父の他界に伴い、私は令和7年の慰
霊祭に初めて参加し、翌8年も続けて参
加いたしました。戦後80年が経過する今
も、多くのご遺族が参列されていました。
私は幼い頃から届く会報を読み育ちま
した。『環礁』第59号には伯父からの手
紙と父の寄稿文が、『環礁本部だより』

第32号には軍歴証明書の入手が可能とい
う記事を見つけました。伯父についてさ
らに知りたく、必要書類を揃えて手続き
をしました。厚生労働省からの回答に
は、昭和18年8月17日に大鷹で横須賀を
発ち、同年10月に公務により発病したこ
とが記載されていました。

今年はクエゼリン現地慰霊の話が出て
います。親族に現地訪問者がいないた
め、供養の思いを込めて私が参加できれ
ばと考えております。この寄稿が会報に
載る頃には、何らかの進展があることを
願ってやみません。伯父にどうか会えま
すように。

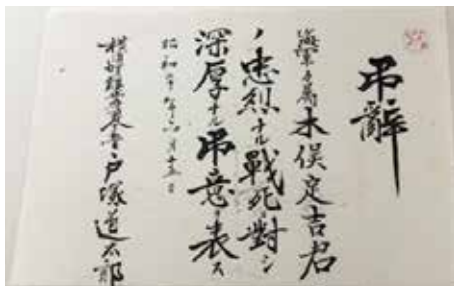
時を経てつながった縁(えにし)

坂本一夫さん・岩手県(栃木出身)・60歳

(戦没者の孫)

今回、初めて慰霊祭に参列させていた
できました。

祖父・木保定治については、生前、義
祖母から「戦死して、お墓には遺骨がな
い」と聞かされていただけで、詳しいこ



戸塚道太郎司令長官からの弔辞の写し

木保定治命

所属部隊 横須賀海軍工廠(第四工作部)
戦没地 クエゼリン島
戦没日 昭和19年2月6日 37歳

とはほとんど知らずに育ちました。

転機は義祖母が亡くなってから、二十
年以上過ぎた時に、実家を整理している
傍ら、義祖母の遺品の中から「南十字星」
や「環礁」の会報誌、そして当時の戸塚
道太郎司令長官からの弔辞の写しが見つ
かりました。そこで初めて、祖父の所属
や戦死した日、そしてクエゼリン島とい
う戦死した場所を知ることができたので
す。奇しくも、その弔辞に記された日付
は母の誕生日でした。

戦後八十年が過ぎ、先の大戦の記憶が
薄れつつある昨今、南太平洋の島々で日
本を守るために戦った先人たちのことを

知る人は、どれほどいるのでしょうか。学校では教わることもない歴史を語り継ぐ責任が、私たち世代にはあるのではないかと強く感じています。

慰霊祭への参加は、今の平和を享受する者としての感謝であり、二度と戦争を繰り返さないという誓いでもあります。また、寄稿にあたり資料を調べる中で、元会長の佐藤宗正氏が私の義大叔父にあたる方だと知り、その深いご縁に驚いております。

この不思議な巡り合わせを大切に、これからも自分にできる範囲で慰霊活動に携わってまいりたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

慰霊の継承

原田 真さん・岩手県・57歳
(戦没者の大甥)

数年前、母方の亡き祖父の名前が、環礁5号と13号にあることを偶然見つけ、その後、弟である大叔父が戦争で亡く



坂本 勇命
所属部隊
海軍第三特別根拠地隊
戦没地
ギルバート諸島タラワ島
戦没日
昭和18年11月25日

なっていることを知りました。

昨年、大叔父の戦没地がギルバート諸島タラワ島であることが解り、マーシャル方面遺族会に入会し、初めて慰霊祭に参加させていただきました。

慰霊祭当日は、高林会長をはじめ、青年部の皆さま方に暖かく迎え入れていただき、参加された方々も幅広い年代の方がおられ、遺族会の長い歴史が受け継がれていることを感じました。

祖父が遺族会と関係していたのは、クエゼリン島に建立された慰霊碑にはめ込まれた岩手県の石選定とのことで、恐らくは、戦争で亡くなった弟のために、残った自分が出来ることをやったのではないかと想像しております。

いつの日か、大叔父が亡くなったタラワ島を訪ね、今があることへの感謝の気持ちを伝えるとともに、祖父が関わった

クエゼリン島の慰霊碑へお参りできればと思っております。

慰霊祭にて祖父を偲ぶ

近藤えり子さん・愛知県・69歳
(戦没者の孫)



日下部 廣命
所属部隊
第四海軍施設部
戦没地
クエゼリン島
戦没日
昭和19年2月6日

父方の祖父、日下部廣は戸籍謄本では南洋群島方面に於いて戦死。と記載されています。

亡き父からは、乗船中に撃沈された。と聞いていました。昨年、詳しく知りたいとの思いで、戦没者遺骨のDNA鑑定と旧海軍の履歴等を厚生労働省に依頼しました。送付された書類には第四海軍施設部クエゼリン支部工員として勤務中のところ、昭和19年1月31日以降同島に上陸の敵部隊と交戦。2月6日に戦死され

ています。と記載されていました。

資料が現在まで保管されている事に驚きました。

クエゼリン島について調べていくと、マーシャル方面遺族会の事を知り、会長の高林様、事務局の方々にお世話になり慰霊祭に参加させていただくことになりました。このご縁に感謝申し上げます。

戦没者の方々の尊い犠牲の上に、今の私たちの暮らしがあることと、戦死した祖父やご先祖様のお陰様で子孫が続いていることへの感謝の気持ちを子、孫へと伝えていくことが大切であると思いました。

慰霊祭は厳粛な雰囲気の中で執り行われました。戦争で犠牲となられた全ての御霊に心からのご冥福をお祈りさせて頂きました。

祖父も見守っていてくれるような気がしました。

高林会長はじめ役員の皆様、ありがとうございます。皆様と共に、慰霊と平和への祈りを続けたいと思います。

厚生労働省主催

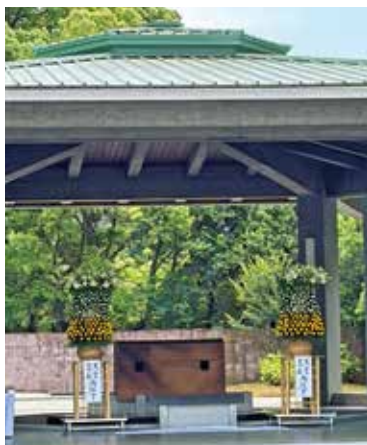
千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式

保延 務

当遺族会から6名参加

5月25日、東京千代田区九段の千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて厚生労働省主催の千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式が行われました。拝礼式は毎年行われ、「この一年で新たに収集されたご遺骨を納骨する」ものです。

今回、皇族として参列されたのは秋篠宮家の次女の佳子内親王殿下でした。そのほか高市首相をはじめ各大臣、政府関係者、衆参両院の議長、国会議員、関係各国の大使、遺族会の会長、関係各団体及び遺族代表、430名が参加致しました。



千鳥ヶ淵の墓苑

当マーシャル方面遺族会からは高林芳夫会長、山浦邦子氏、和田一郎氏、吉村真澄氏、中野和美氏、そして保延務の6人が参列しました。

今年、世界各地から収集され、新たに納骨されたのは193柱で、累計では37万1167柱になるが、今なお112万柱が未収容となっているとのことでした。

上野賢一郎厚生労働大臣は式辞で「戦後80年以上経過したが、大戦の記憶を風化させることなくご遺骨の一日も早い帰還の為に事業を継承していく」と述べました。



左から

中野さん、山浦さん、高林会長、
筆者・保延、吉村さん、和田さん

事務局からお知らせ

■事務局住所が変わります

事務局が三鷹から左記に変わります。

〈新〉東京都東村山市栄町1-33-22
090-7223-0500
(保延副会長)

■青年部のアドレス廃止

青年部の古田さんが事情により3月に退会されましたので、前号でお知らせした青年部のメールアドレスは廃止いたします。

■当会主催「現地慰霊」について

現在、プランの検討も含めて旅行会社と打合せ中です。

見積り等が出ましたら、参加希望者22名へ個別にお知らせいたします。本件は時間がかかるため、しばらくお待ちください。



新入会員 (戦没者との続柄・島名)

中野和美様 67歳 東京都(姪 クエゼリン島)
戦没者 中野恵之命
近藤えり子様 69歳 愛知県(孫 クエゼリン島)
戦没者 日下部廣命
坂本一夫様 61歳 岩手県(孫 クエゼリン島)
戦没者 木保定治命
田中奈美江様 60歳 千葉県(孫 クエゼリン島)
戦没者 吉田範熙命
林 浩暢様 63歳 福岡県(孫 クエゼリン島)
戦没者 下宿千三命
秋山 徹様 62歳 神奈川県(甥 ブラウン島)
戦没者 秋山 恵命
ご入会ありがとうございます。

寄付者 御芳名(敬称略)

※令和8年5月現在

十万円 吉田正明
二万円 高林芳夫 保延務 橋本勝彦
一万一千円 富岡滋子
一万円 朝香誠彦 大給乗龍 安細和彦
中原悦男 織田邦男 池田幸夫 酒井
則夫 諸橋恒一 渡辺美枝子
七千円 黒川正文 番場守 上村秀樹

藤田洋子 宮城勇 山口良二 奥井
國夫 坂本公洋 小室洋子 川端堅太
郎 植田和明

五千円 佐藤勉 中野和美 小林すみ
子 金森佳子 清水雅尚 井上賀彦
秋山正之

四千円 富田知子

三千円 中村貢 近藤えり子 小山浩二

下野敦史 廣島正光

二千円 中村佳子 鈴木千春 相川健一

西岡純一 佐藤知子 東邦義 北條勝

成 小田原利子 山田昭雄 三好茂勝

下釜正義 齋藤玲子 米林義昭 鈴木

友季子 千田啓子 古市光男 白方勝

彦 宮下勤子 高坂和靖 長屋綾子

黒澤みどり 蜂屋雅代 原田記子 葛

西勉 吉原太郎 長岡正昭 匿名一名

一千円 原田真 石澤洋子 山村一郎

和田一郎 山村公也 河崎仁衛 坂本

一夫 間々田征史 笠原奈美子 田中

奈美江 山田二美 小林ヨシ子 藤田

朋子

※75名より合計45万9千円のご寄付を頂きました。

心より感謝を申し上げます。

断捨離する前に！

編集部よりお願い

慰霊祭にもご参加いただきました元外務省・岩田哲弥様は現在、一般社団法人・太平洋協会（港区赤坂）の事務局長をされています（附属・太平洋諸島研究所の首席研究員でもあります）。

太平洋協会の資料室には、日本の委任統治時代からの南洋群島に関する、日本政府、海軍、南洋庁、当時の企業、研究所、新聞や雑誌記事など、多様な資料が保管されています。行政・産業のほか、文化、風俗、自然科学、文学など幅広い蔵書です。

遺族の皆様がお持ちの、古い太平洋に関する史料、私家版の冊子、地図、海図、手紙・自筆メモやガリ版刷りの印刷物などがございましたら、断捨離せずに、太平洋協会へご寄贈いただけましたら、順次アーカイブ化して太平洋研究に活かします。

かつて日本と縁の深かった南洋群島。戦争の悲劇が起りましたが、今後の日本と太平洋島嶼国との新しいパートナー

シップのためにも、戦前、戦中、戦後の史料の寄贈をご検討ください。

本件は編集・鈴木が窓口となりますので、左記メールアドレスへご報ください。

e-suzuki@fuyoshobo.co.jp

遺骨調査派遣について

6月9日から19日まで、日本戦没者遺骨収集推進協会の調査団がクエゼリン環礁の離島に遺骨調査に行きます。

予定している調査対象は、ギー島、ギエ島、グゲグゲ島、イバイ島、エニラビガン島、エマーソン島、サント島（旧名エニンブル島）という環礁の島々です

残念ながらクエゼリン本島およびロット（ロイナムル）島は、今回は対象外です。

厚生労働省

遺骨収集ユーチューブ動画

「先の大戦における戦没者の遺骨収集事業について」遺骨を故郷へ、遺族の元へ」

<https://www.youtube.com/watch?v=0oqR14f0GQA>

平成28年に成立した「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」において、戦没者の遺骨収集は「国の責務」として、現在、厚生労働省では令和11年度までを遺骨収集の集中実施期間とし、事業に取り組んでいます。収集した戦没者のご遺骨をご遺族にお返しするためのDNA鑑定も実施していますが、鑑定を行うには、ご遺族から申請をしていただくことが必要であるため、この事業を広く周知しています。

厚生労働省が行っている遺骨収集事業を、より多くの方に知っていただくため動画を制作しましたので、是非ご覧ください。戦没者遺族への援護に関する情報については、厚生労働省HPに掲載しています。

【遺骨収集事業の概要】

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/senbotsusha/index.html>

【DNA鑑定の申請手続き等】

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137645_00006.html

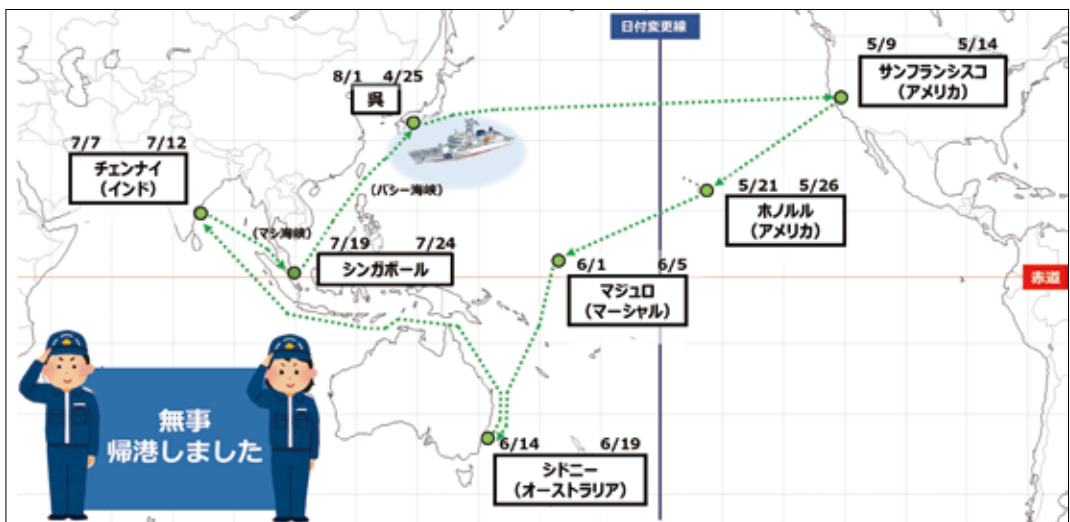


令和七年六月一日、海上保安大学校の練習船「いつくしま」がマジュロに初寄港しました。五十一名の実習生が搭乗した「いつくしま」は、同年の四月二十五日に母港の呉を出港。八月一日に帰港するまで、下図のような行程で九十九日間の遠洋航海実習が実施されました。



船尾に大きな日の丸がはためく「いつくしま」(総トン数5,500トン、全長134m)

「いつくしま」がマジュロに初寄港
イバイ島在住の太田さんより
現地レポート
太田 智明



令和7年度の遠洋航海実習の行程 (出典：海上保安庁HP)



いただいた「おでん」と「お寿司」

六月二日の夜には、マーシャル政府関係者や日米豪と台湾の大使館関係者の他、マーシャル在住の日本人もお招きいただき、船上レセプションが開催されました。



オープニングセレモニーでご挨拶する相馬大使
右端は溝口船長。この日の丸がいかにか大きいかわかりますね



溝口船長さんと私



ミッドウェー沖における慰霊の様子（出典：海上保安庁HP）



ソロモン諸島戦没者慰霊の様子①（出典：海上保安庁HP）



ソロモン諸島戦没者慰霊の様子②（出典：海上保安庁HP）

オープニングセレモニーでは、マーシャル政府代表のご挨拶の他、日本の相馬弘尚大使や溝口直樹船長のご挨拶があり、両国の国歌が流れました。マーシャルの海に「君が代」が流れたときには、英霊の皆さまにも届いているだろうか…と、思わずこみ上げるものがありました。そして、鏡開きの後、日本食を中心とした食事が提供されました。異国で食べる久しぶりのお寿司やおでんのおいしかったこと！涙が出る思いでした。

そうこうしているうちに、溝口船長さん

とお話をする機会に恵まれ、私は祖父が当地で戦死していることをお伝えしました。すると、「この船はハワイから来ましたが、真珠湾はもちろん、ここにくる途中もミッドウェーを経由して慰霊をしてきました。この後もシドニーに行く途中でソロモン海域を抜けますが、通過する際に私たちは必ずこの制服に着替えて慰霊をします。実習生は戦争を知らない若い世代の者ばかりです。なので、そうしたことを教えることもこの実習の目的のひとつです」とお話ししてくださいました。そして、「軍艦どうしを直

接接触させてはいけません。そのために私たちがいるのです」と、海上保安官としての使命も語ってくださいました。

こうした実習が毎年実施されていることも、その途中で慰霊をさせていただいていることも、海とは縁遠い長野県人の私は全く知らずにいて申し訳なく思いました。私たちの安寧な暮らしは、こうした皆さんの日々のご尽力のおかげであることを忘れてはいけないと思いました。



第63回マーシャル方面遺族会慰霊祭 令和8年4月5日 於 靖國神社

※事務局へのご意見・ご感想、投稿記事、マーシャル関連情報などお寄せください。
お問合せ先 事務局・高林 048-223-6110 携帯090-3337-4531 メールアドレス takabayashi.yoshio@khaki.plala.or.jp